

当たり前前の小さな幸せを一杯集めて暮らすことの大切さ

ご自宅を津波で流され今は仮住居で暮らすメル友から、「阿部さんと出会って、本当にいろいろと学んできました。だからこそ、震災後もやって来れたと思います。ありがとうございます。」の言葉と共に、お子さんの学校のPTAの文集への寄稿文が添付されていたので紹介します（抜粋）。

【 間もなく、震災から2年が過ぎようとしています。

生きることに関心一杯で過ごしてきた震災直後を振り返ると、すべてを失って、初めて分かったことがたくさんありました。

そして、震災から多くの事を学ぶことができました。

自然の前では、人間の力は無力だが、生きようする力は無限と感じ、無限に備わっている力をそれぞれがそれぞれの環境で存分に発揮できる事こそ大切だと実感しました。

これまで体験や経験から身につけた知恵が生きる力や支えであったように感じます。

想いを伝える事の大切さ、ありがとう、おいしい、温かい、嬉しい、楽しい、その時々できちんと伝える事。

人間なんだから、怒り、悲しみ、喜び、楽しみの感情があって、当たり前、想いを伝える事で、怒りや悲しみが半減し、喜びや楽しみは倍増する事を実感しました。

当たり前前の小さな幸せに、気づき、一杯集めて暮らす事、すべてをあるがままに受け入れて、ありがたいな～と暮らす事、それがどんなに大切か学ぶことが出来ました。

ここに書ききれないほどの感謝と、同じくらい、悔しい思いや悲しい思いも経験しました。

人間ってこれほど残酷非道なのかと思う人と、同じくらい、いやそれ以上に、なぜこれほどまでに人に尽くせるのかという人々と係わることが出来ました。

どんな関係でも係わりを持った全て人とのつながりが、人生万事塞翁が馬を実感しました。

究極の状態で学びえたことは、子供たちへ伝えてこそ、生きてくるのではないか、と思っております。

忙しさなどで忘れがちですが、子供たちへ伝えることで復習をしております。】

やはり、被災された方々の気持ちの整理には時が必要なようで、まだまだ時が必要な方々も多いのではないだろうか。